

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【第91号】2017年7月

東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL: 03-3383-7800

第15回総会開催、全議案可決で終了しました。

7月15日(土)、東京都生協連会館において、第15回コープ災害ボランティアネットワーク総会が開催されました。35人の実出席、115人の委任で成立。全議案が速やかに可決されました。昨年、会則が変更され、地域で活躍できるボランティアの養成をすすめることを大きな目標に活動した、2016年度の活動のまとめと、あらたに2017年度の活動方針の提案を会員で確認しました。また、2017年度の幹事を選出、8人の幹事を承認しました。



司会：小松幹事 議長：白上幹事

開会挨拶

2002年に設立したコープ災害ボランティアネットワークの会員も500名を超えました。今年も、地震や豪雨による河川の氾濫や、崖崩れなど頻繁に起こっています。その中においてコープ災害ボランティアネットワークの会員の学びが役に立つことと思います。本日も総会後の学習会等でスキルアップし、各生協や地域に広め、ご活躍されますようお願い致します。



東京都生協連
秋山純専務理事

《2017年度幹事》

廣澤恵一(コープみらい・職員) ☆
野崎雅利(生活クラブ連合会・職員) 代表幹事
平野浩孝(パルシステム東京・職員)
白上勝治(東都生協・職員) 副代表幹事
宮本陽子(コープみらい・組合員)
小松泰子(コープみらい・組合員)
中村佳子(パルシステム東京・組合員)
西 裕子(東都生協・組合員)

総会終了後の第1回幹事会において、代表幹事と副代表幹事が互選されました。

(☆は新任)



◆第1号議案

2016年度活動報告承認の件

◆第2号議案

2017年度活動計画承認の件

◆第3号議案

2017年度幹事選出の件

議案提案

大矢代表幹事より、議案提案があり審議され、速やかに可決されました。

議案提案は、パワーポイントでスクリーンに映し出し、大変分かりやすく説明されたので、会員アンケートでは、好評でした。



大矢代表幹事

➤大矢代表幹事は、2016年度で幹事を退任されます。幹事を8年間務めていただき、うち、副代表幹事3年、代表幹事を4年と長きに渡りご貢献いただきました。大変、お疲れさまでした。

閉会挨拶

地元でも防災の取り組みに参加しています。頻繁に起こる災害は、異常気象がもたらすものですが、これは人間が生産活動を行なってきた結果だと考えられます。持続可能な環境を守り、次の世代に残せるように、いろいろと取り組んでいくことが出来たらよいと考えます。

野崎副代表幹事



災害時、要配慮者の暮らしを、誰が、どう支えるか

～平成 28 年熊本地震の現状等をふまえて～



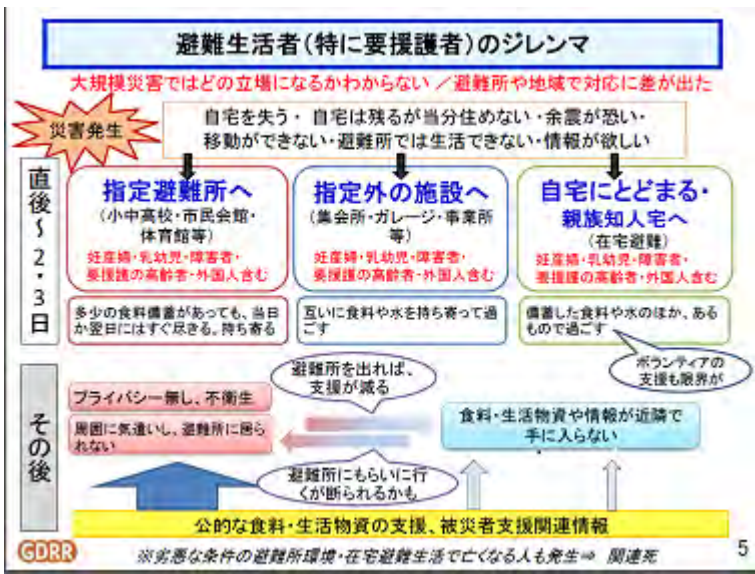
減災と男女共同参画研究推進センター 共同代表
早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員
専修大学 非常勤講師 **浅野幸子氏**

講師プロフィール

阪神・淡路大震災に際して学生ボランティアから国際協力NGOのスタッフとなり、在宅避難者・仮設住宅・全焼地域の復興まちづくり協議会の支援などに 4 年間従事。その後、(財)消費生活研究所、全国地域婦人団体連絡協議会でそれぞれ事務局・研究員として勤める。この間、働きながら法政大学院修士課程修了(政策科学修士)。2011 年 6 月に発足した東日本大震災女性支援ネットワークの活動に参加。2014 年 4 月より、後継団体である、減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表。主な分野は地域防災。ここ数年、年間 100 前後の防災講演・講座・研修を各地で行っている。

その時、すべての人々が被災者になり、誰が誰を支えるのか、そして支えられるのか。被災地での経験を基に、求められる助け合いや支援活動についてお話いただきました。元気な語り口に参加者は真剣に聞き入っていました。

◆大規模災害時の避難生活の現実、東日本大震災においては、病院の機能停止による、治療の遅れや、既往症の悪化。避難所における生活の肉体的・精神的疲労、地震・津波・原発事故のストレスによる肉体的・精神的負担など、関連死に至るケースが多く見られる。熊本地震においては、直接的な死者は 49 名だが、関連死認定された数は、2017 年 4 月末現在、180 人に上っている。



自分たちが地域で役立つには？

- 性別・立場による被災の違い**
- 環境面の困難**
- ・生活環境 (プライバシー、衛生)
 - ・物資の不足と配布方法
 - ・心身の健康
- 安全面の困難**
- ・DV⇒元々あった暴力の悪化
 - ・性暴力・ハラスメント⇒多様な形態で起こった
- 家庭・社会生活面の困難**
- ・女性の炊き出し負担、一部の男性への過度の負担集中
 - ・責任者や委員は大半が男性、女性や障害者等が参画できない
- 復興期の家族、地域での関係の問題**
- ・孤立、アルコール依存
 - ・DV、虐待
 - ・働くこと、収入を得ること

- 助け合い・支援活動の好事例
- 女性たちの要望の積極的な掘り起こし
 - ・別室での聞き取り・リクエスト票活用・男性の理解
 - 女性が男性とともにリーダーシップを積極的に発揮
 - ・女性リーダーを通じて要望を聞く
 - 専用スペースでプライバシーの無い生活を支える
 - ・女性専用スペースを設置(兼相談スペース)
 - 高齢者など配慮が必要なひとのための専用スペースや簡易ベッドの設置
 - ・高齢者や障害者などが過ごしやすい部屋
 - ・段ボールによる簡易ベッド
 - 在宅避難者の支援の仕組みづくり
 - ・在宅避難者に食料・物資を配布する仕組みを作る
 - 託児・託老支援の重要性

被災者一人ひとり直面する問題は違う
「同じ支援で皆平等」では、被害拡大

地域に暮らす多様な人々の「違い」に配慮した体制・支援が必要

多様な支援者との連携(行政担当・社会福祉協議会・ボランティア団体・など)

多様性に気づくカードワーク

要配慮者の生活困難を考えるワークショップ

避難所となった小学校には、下記のような人たちがいます。

- ① 当事者・家族・周囲が困ること、必要とするモノや環境について話し合い、用意されたカードを置いたり、付箋に書いて貼ります(1対象に5枚以上)
→ ヒント: モノ・環境・情報・人手の支援
- ② その後、時間があれば、さらに支援に必要な資源について話し合い、付箋に書いて貼り出します。

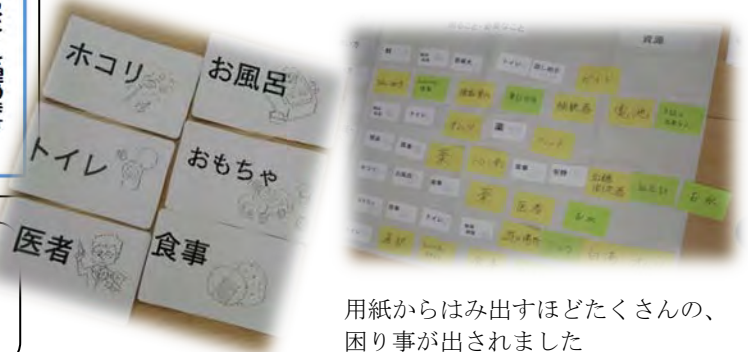
対象	困ること・必要なこと	資源
目の悪い方	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
耳の悪い方	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
体が不自由・車いすの人	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
糖尿病・高血圧・嚔下障害の人	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
喘息・食物アレルギー・アトピー性皮膚炎	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
乳幼児・子ども	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
外国人	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	

先に「困ること」を埋めます

SDRR

◆避難所にいる要配慮者の困り事を抽出し、その困り事や必要なことに対して、どんな資源が有効かを、グループで話し合いました。

嚔下障害のある方には、「とろみ剤」、耳の不自由な方には「筆記用具」、乳幼児には「哺乳瓶」など、誰かの気づきでたくさんの困り事を共有する事ができました。

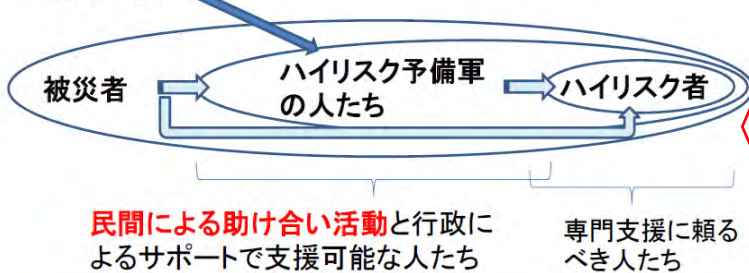


用紙からはみ出すほどたくさんの、困り事が出されました

➢ワークで使ったカード。

他に勉強部屋・ホコリ・杖・階段段差など、20項目程を用意しておきます。考えるきっかけづくりになります。

災害時に増加!



- 民間の支援活動の大部分を占める、非専門的な活動でも、リスクの高い人への支援の在り方を考える必要がある。
- 被災者同士、地元の市民団体、外部支援団体などの力を引き出す、必要に応じて行政や専門支援との間をつなぐ、連携力が大切になる。



まず、カードを選んで・・・みんな立ちあがってのワーク

今日の学びを、地域や所属生協でも体験してみませんか？困り事をたくさん意識することで、その対処を、できることから考え、自分ができなくてもできる人や団体を知っておくことで、コーディネートできる人になれるといいですね。また、しっかりと意見を言えるようにしておくことも大切です。困り事は、平時から要支援者本人から聞いておくことも大事です。身近な方から聞く機会を作ることができると良いと思いました。

《参加者アンケートより》

◆気づいた事

- * 相手の立場を考えて「何が必要か？」を考える上で男女、様々な立場のひとたちの知恵を集めて実践することが命をつなぐ上で重要と感じました
- * 当事者は自分に何が必要なのかを知っており、当事者と一緒に支援活動をするのが大切
- * 想像力をめぐらせ、どこでどんな支援が必要か考えて活動することが大切というのが、印象に残った
- * 関連死が多い事を知り、それが多様な人が声をだすことで減らしていけるとわかった

◆加入生協や地域に活かせるヒント

- * 女性リーダーの必要性を説く事
- * 託児の活動を活かした一時預かりの仕組み作り
- * 「困る事・必要な事ワークショップ」は、短時間、低コストで、効果の大きさにビックリした、ぜひ取り入れたい
- * たくさんありました、よく咀嚼して一人でも多くの人に伝えたい
- ・女性の防災リーダーを育てる必要性を伝えていく